

地域活動充実支援事業を実施している3地区の事業報告・交流会を開催しましたので、ご報告します。

令和2年度 地域活動充実支援事業報告・交流会 概要

日時	場所
令和3年3月23日(火)14:00~16:10	姫路市役所 10階 第2会議室

出席者（順不同）

事業実施地区：手柄地区連合自治会（高澤会長ほか1名）
 高浜地区連合自治会（長田会長ほか2名）
 安富北地区連合自治会（古井会長ほか1名）
 アドバイザー：特定非営利活動法人 丹波ひとまち支援機構 代表理事 戸田 幸典
 姫路市市民活動推進課：藤保課長ほか1名
 オブザーバー・傍聴：4名

1 開会、あいさつ

市民活動推進課長から開会のあいさつをいたしました。

「本日の会が、各地区での事業の状況をお互い確認し、意見交換を行うことで、次年度への事業に向けての刺激や新たなアイデアの資源となることを願います。」

2 報告、意見交換

（1）中間報告について

市の担当者から、地域活動充実支援事業の中間報告書に従い、説明を行いました。

（2）各団体から進捗報告

事業を実施している3団体から報告を行いました。

手柄地区は、アンケートの実施、月1回会合を開き、勉強会、地域活動の提案、手柄の歴史文化の勉強等を行っているが、組織づくり、計画づくりはなかなか進んでいないこと等の報告がありました。

高浜地区は、パワーポイントを利用して説明を行いました。今年度は高浜会議を母体にアンケートの分析や、ワークショップを行ったこと。来年度以降、公民館を拠点に活動を進めたいこと等の報告がありました。

安富北地区は、母体となっているとみず活性化推進協議会の状況、コロナ禍で、集まることすらままならない状況ではあるが、公民館以外の公共施設での会合を検討していること等の報告がありました。



進捗報告の様子

（3）質疑・意見交換

各地区の報告を受けて、質疑・意見交換を実施しました。

進行はアドバイザーの戸田様にお願いしました。

アドバイザーからは、当初目的と実際の活動とのへだたりについて、改めて各地区に確認してもらいたいとの話がありました。

次にフセンを事前に用意し、進捗報告の内容について、フセンに感想、質問事項等を記載してもらいました。内容によりグループ分けしてホワイトボード上に貼付け、フセンの内容に基づき、質疑、意見交換を行いました。

質問では、「高浜地区のエリアトーク（放送設備）の経費はどれくらいかかったのか。メリットは。」との質問や「高浜地区、手柄地区で行ったアンケートから見えた課題は。」との質問があり、エリアトークの経費、メリットとして小学校の下校時間に合わせて校区全体で見守りをお願いする放送ができることなどの報告がありました。アンケートについては、高齢者・子どもの見守り、美化活動、健康づくり、防災など両地区とも同じような課題が上がっていることが分かりました。アドバイザーからは、美化活動が上位に来るのは他都市では少ないことや、アンケートの状況を確認すると、世帯単位の回答で、回収率も決して高くない状況であり、回答が高齢者に偏っていないか、若い世代の声は把握できているのか、といった課題があること、今後の活動に活かすにしても漏れている声をどのように拾い上げていくかが課題になるとの話がありました。

また、手柄地区には、「全体の協議、組織づくりは諦めましたか。」との質問があり、組織づくりから入らず、まずは活動の実績を作りながら、形にしていこうとしているとの回答がありました。

意見交換の中で、どの地域でも担い手不足、担い手づくりが大きな課題となっていることや高浜地区では、スマートコミュニティを目指して、組織の簡素化、単位の地域活動組織の活動が難しい場合は、地区レベルで活動しようとしているとの話がありました。アドバイザーからは、「中山間部でも都市部でも同様の課題がある。この役をすれば、更に次の負担があることが分かっている中で手を挙げる人は、なかなかいない。地域づくりでは、隣保、自治会で出来ることは隣保、自治会でいい、それでは困難で、効率的でないことは、より大きな単位で行う仕組みを「補完性の原則」と言い、これを意識して行うことが大事だ、この原則を意識し、規約や事業の見直しをしていくとよい。」との話がありました。

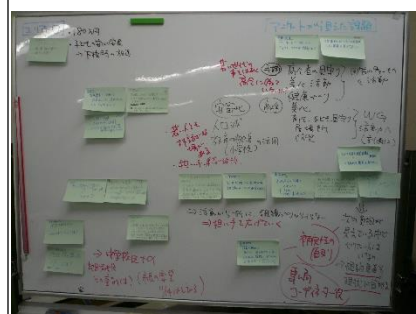
最後に、アドバイザーから、「新型コロナウイルス感染症の対策も含め、地域活動にも ICT 化は重要で、ZOOM などの WEB 会議システムを



質疑・意見交換の様子



質疑・意見交換の様子



ホワイトボードに集約された質問内容等のフセン

利用して、講座をしたり、会議をすることで、外に出たくても出られない人やその日、その時間に行けない人とも繋がることができる。そういう点で、地域でのWi-Fi等のインターネット環境の充実は必要性が高い。」との話がありました。

3 令和3年度に向けて

最後に、市の方から、令和3年度も地域活動充実支援事業として補助事業を実施すること。できれば、外部の人材にアドバイザーとして関与していただきたいと考えていること。令和3年度中にこの事業の状況も参考として、地域活動支援の大きな方針を決めたい。との説明を行い、本会を終了しました。

ご参加いただいた皆様ありがとうございました。